

V 交流を広げる（活気）

人口減少・超高齢社会の到来を見通し、郊外発展型のこれまでの街づくりをあらため、多くの人が集い楽しめる新しい時代の「街づくり」と「ふくい文化の創造」に挑戦します。また、高速交通網の整備が大きく進むこれからの時代にふさわしい県外、世界への新ネットワークを築き上げ、人流、物流などの交流を活発化します。

そのために、活気にあふれる街づくりと新ネットワークを活用したブランドや観光の振興（新時代の街づくり）、県民の自信と誇りにつながる外に開いた「新しいふるさと」づくり（交流ネットワーク拡大）を推進します。

V-1 新時代の街づくり

長期的な視点に立って、人口減少・超高齢社会に最適な街づくりや地域の基盤づくりを、県民や市町とともに進めます。また、一人ひとりが「新しい私^{わたくし}」としてみんなのために活躍する暮らしのスタイルを福井の新しい文化にまで育て上げ、次の世代に引き継いでいきます。

こうしたハード（都市基盤）、ソフト（文化）を活かし、外に向かって開かれた新しいつながりを広げます。福井流の生活や福井ブランドに磨きをかけ国内外にアピールすることによって、海外、県外からの観光客を大幅に増やします。

- (1) 新時代にふさわしい都市改造
- (2) 暮らしを高める「ふくい文化」
- (3) 福井のブランド・観光新展開

(1) 新時代にふさわしい都市改造

- 現代の都市は、世帯数の増加や自家用車の普及、大型商業施設の立地などによって市街地が郊外に広がり、中心市街地からの人口流出や中心市街地の商業低迷など、構造的な課題をたくさん抱えています。人口の減少と高齢化が一段と進む中、今までの街づくりのあり方を大きく転換する必要があります。

長期的な展望をもって、これからの時代にふさわしい「新時代の都市改造」を、県民の理解と協力を得ながら各市とともに進めます。
- 北陸新幹線の県内延伸が実現することによって、JR福井駅をはじめ新幹線各駅を結節点とする新たな人の流れが生まれます。特に、県都の福井駅周辺には、福井城址、養浩館庭園、柴田神社、足羽川、足羽山といった歴史・文化、水や緑の憩いを感じることのできるスポットが数多くあります。

「駅周辺のにぎわい創出」など福井市中心部の大きな方向づけについて議論を進め、市とともに街の再設計（リ・デザイン）を進めます。
- 超高齢社会に対応した「高齢者標準」の街づくり、雪や雨に強い歩行者優先の街づくりを県内全域で進め、子どもから高齢者まで安心して活動できる公共空間、移動空間をつくります。

特に、福井は、車への依存度がとても高い県です。超高齢社会を見通し、公共交通機関の接続改善、中山間地域における買い物バスやボランティアバスなど生活を支える地域交通の仕組みづくりを進めます。生活圏における移動手段の確保、それぞれの生活圏と都市部とを結ぶ交通ネットワークの維持・向上をめざします。
- クラウドコンピューティングなど新たな情報技術が発達し、新しいネットワークも生まれています。今後、ICT（情報通信技術）は産業や教育の分野はもちろん、超高齢社会を迎え医療や介護などさまざまな分野において新たな価値やサービスを生み出す前提になります。

県は市町とともに、ICTの大きな進歩に遅れることのないよう新しい技術を取り入れながら、いつでも、どこでも、誰とでもつながる、使いやすく人にやさしい情報ネットワークをつくり、維持していきます。

(2) 暮らしを高める「ふくい文化」

- 文化は、私たちがふるさとの先人から受け継いだ歴史的遺産だけではありません。私たちの暮らし方、生活の様式そのものが「ふくい文化」を支えています。

私たちは、これからの時代にふさわしい生活様式をつくる努力を続けることによって「暮らしの質」を高め、新しい福井の文化に育てていきます。

- 福井は、歴史的遺産の宝庫です。鯖街道（熊川宿）や北国街道（今庄宿）など旧街道が往時の面影を伝えていますが、福井は古来、奈良や京都などと盛んに行われた交流・交易を通じて、先進文化を取り入れながら固有の文化を築いてきました。

福井には、歴史的遺産の他にも伝統的な祭り、芸能（水海の田楽能舞など）、行事が今日まで残っています。このような伝統・文化を絶やすことなく、私たちの子や孫へ引き継ぐ地域の住民や団体の努力を「ふくい文化の後継者」として企業や行政が応援する仕組みをつくりまします。

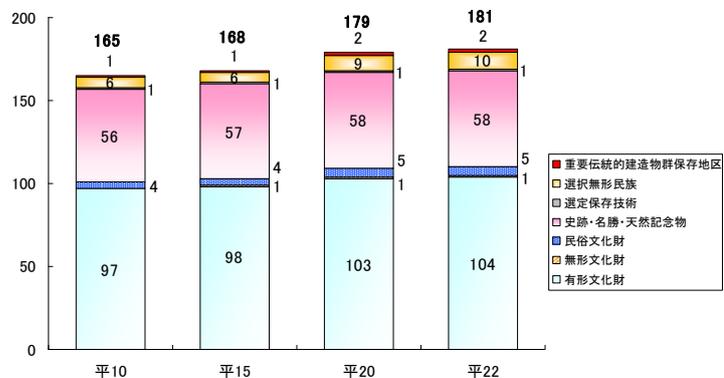
- 各家庭や企業に伝わる一級の美術品や各地域に残る歴史的遺産などを遺す「ふるさと遺産コレクション」の仕組みをつくり、福井の古くて良いものを将来へ引き継いでいきます。

- 美術館・博物館など文化施設のネットワーク強化、福井ゆかりの作家や詩人の足跡をたどる「ふるさと文学館」の設置など、県民が「ふくい文化」を楽しみ、鑑賞・参加できる機会を増やします。また、次の時代を担い世界に挑戦する若手文化人・芸術家を県民、企業、行政総ぐるみで応援します。

- 白山文化など特色あるテーマや平泉寺・一乗谷朝倉氏遺跡・吉崎御坊など同時代の文化をつなぐ「歴史・文化研究」を進め、ふるさとの歴史に対する県民の関心を高めます。

また、福井の歴史・文化を題材にした観光、映画・ドラマの制作などに活かします。

福井県の文化財指定状況（国の指定・選定・選択）



出典：福井県教育庁文化課資料

(3) 福井のブランド・観光新展開

- 県民のふるさとへの自信と誇りを高める「福井ブランド」の創造と発信をさらに強化するとともにビジネス化を推進し、福井の認知度を高めます。
国内外への働きかけについては、県民、企業、団体、市町、県がさまざまなツールや媒体を活用し、それぞれの目的に応じて最も効果的な「共動営業」のスタイルをつくり進めます。
- 県外に伸びる高速交通ネットワーク（北陸新幹線、舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道）の整備促進のための働きかけを強め、県外、海外から多くの人びとを福井に呼び込むための大動脈を一日も早く完成します。
- 平成26年度には舞鶴若狭自動車道が敦賀まで全線開通し、嶺南地域と嶺北地域、関西・中京圏とをつなぐ交流基盤が大きく改善されます。海の幸など嶺南ならではの特長を活かした観光地の魅力づくりや小浜の街なか、敦賀港エリアなどの観光拠点を強化する「若狭湾岸ハイウェイ」プロジェクトを進め、多くの観光客を集めます。
- 10周年を迎えた県立恐竜博物館は世界レベルの研究水準を向上し、「恐竜王国」のブランド価値をさらに高め、国内外に発信します。
また、中部縦貫自動車道の延伸、化石発掘現場周辺の「野外博物館」化、地元勝山市一帯を「ダイノソーバレー（恐竜溪谷）」として磨き上げることなどによって、奥越地域を中心に県外から多くの観光客を継続的に呼び込みます。
- 福井の観光客入込数は、増加の傾向にあります。県をあげて関西・中京圏を中心に県外、海外に福井の売り込みを強化し、観光客を増やします。
特に、東尋坊、あわら温泉、永平寺など観光地の充実、戦国・幕末など歴史的な観光資源や周辺エリアのルート化、県民のホスピタリティ向上など、観光客の満足度を倍増する「旅のハイライトづくり」と「もてなし力の向上」をめざします。
また、県内各地域はもとより、石川、岐阜、滋賀、京都といった隣接府県、北陸や関西・中部圏などとの広域的な連携を強め、アジアにまで視野を広げた「教育旅行」、「ヘルス・ツーリズム」などの旅行商品を企画・セールスし、国内外からの宿泊客を大幅に増やします。
- 国際会議や学会などのコンベンション誘致を強化し、会議後のサイトツアーなどにより福井をアピールします。

V-2 交流ネットワーク拡大

県民一人ひとりが外に向かって開き、国の内外との交流を盛んにすることによって、活気にあふれる「新しいふるさと」が創造されます。県民や企業が県内外や未来に目を向けておこなうさまざまな活動を多様な仕組みをつくって応援し、「福井の希望」をつくり出します。

また、地方分権時代にふさわしい大都市を経由しない地方同士の「流通・ビジネスモデル」をつくり出します。大都市に集中するヒトやモノ、カネの動きを変えるための新しい動きを地方連携の下で強め、大都市から地方への人や企業の「分散」を促進します。

国内外とのネットワークを築き上げ、地方分権時代に私たちの「ふるさと福井」から日本を変える新しい動きをつくり出します。

(1) 内外の力を活かす「新しいふるさと」

(2) ローカル・ネットワークの発展

(1) 内外の力を活かす「新しいふるさと」

- 私たちは「内向き」の気質をあらため、県外、海外に向かって積極的に開き、外の活力を取り込み、「福井に暮らして良かった」と県民の誰もが思える活気にあふれる「新しいふるさと」づくりを進めます。
また、福井の「暮らしの質」を共に高め外に積極的にアピールすることによって、県外に住む人びとに「福井に住んでみたい」、「福井を応援しよう」と思ってもらえるような県づくりを推進します。
- 福井出身者や福井ゆかりの人など、福井を愛する県外在住の福井ファン（応援団）を増やし、その知恵や力をふるさとの街づくりや国内外との交流などに活かす仕組みをつくります。
そして、これらの人びとを福井の内と外とをつなぐ「ふるさと県民」ととらえ、そのネットワークを広げます。県人口70万人台の時代に県外からの応援や活力も結集し、人口百万人規模の地域活力を生み出します。
- 「ふるさと回帰」や都市の本居はそのままに地方に兼居する「二地域居住」の動きが活発化しています。このように大都市から地方へと向かう新しい人の動きを好機ととらえ、県内の各地域において帰住・移住希望者の受入体制を整え、情報発信や働きかけを継続的におこない、「ふるさと帰住」や「新ふくい人の誘致」を促進します。
- 外国人が快適に生活できる環境づくりを進め、福井を愛する海外の「知福人」のネットワークを広げることによって、いつでも訪問・滞在・居住できる機会を増やします。

(2) ローカル・ネットワークの発展

- これまで築いてきた隣接府県、北陸・中部・関西の各地方広域ブロックのネットワークをさらに発展させ、観光や環境など県域を超えた広域的課題を、県民、企業、団体など多様な主体の参加を促進し解決していきます。
- 地方と地方（ローカル・アンド・ローカル）が大都市を経由せず連携する自治体ネットワークを拡充することにより、「地方知」を活かした施策づくりを推進します。
大都市から「新ふくい人」や学生、企業の福井への誘致を進める施策を提案し、また福井から率先して実行することにより、大都市に集中する資源の「地方分散」を促進します。
- また、企業、団体、大学、メディアなどさまざまな分野における地方間の交流ネットワークを築き、中小企業同士の共同研究や新製品開発プロジェクト、特産物の相互販売などを推進し、地方発の新しいビジネスモデルをつくります。
- 「ふるさと起業」、「ふるさと遺贈」など福井発の新たなライフスタイルを大都市を中心とした県外の人びとに積極的に提案し、福井の豊かな暮らしと福井における活躍の場を提供します。